



FUSO 

# FUSO REPORT

## 第62期 中間報告書

2018年4月1日から2018年9月30日まで





## 株主の皆様には平素より格別なご理解とご支援を賜り、 誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

当社は、2018年6月22日の株主総会およびその後の取締役会の決議を経て、新しい経営体制でスタートしました。新体制のもと、ビジネスの方向性・経営方針を変えるものではなく、中期に「売上高500億円、償却前利益率30%」の早期達成を目標にチャレンジしてまいります。

中期成長戦略の早期実現のため、市場のニーズ、環境の変化を先読みし、グループ総合力の更なる強化と経営効率の最大化に取り組んでおります。特に成長確実性の高い事業、並びに利益牽引事業に経営資源を投入しており、いずれも投資が先行しますが、当社グループの持続的な成長のため、事業競争力を強化します。

今後も、アジア市場をターゲットとした事業の拡大、経営の透明性・効率性を確保するコーポレート・ガバナンス体制の構築、未来に向かっての設備投資など、積極的な経営を行うことにより、継続的な企業成長を実現させていく所存です。

当社が成長し続けるための基盤は確実に整いつつあります。当社の掲げる経営信条は「信用を重んじ確実を旨とし」「技術を通じて国家社会に貢献していく」です。技術力を磨く努力を惜しまず、お客さまから信用される企業であり続けること、そして自らも進化し続けることが企業成長の必須の要件と考えております。

今後も株主の皆様のご信頼とご期待に応じてまいりますので、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役会長  
藤岡 実佐子

代表取締役社長  
中野 佳信

## トップインタビュー (Q&A)

### Q 当上半期の業績についてお聞かせください。

A 第2四半期連結累計期間としては、過去最高の売上高と純利益を達成する事ができました。

当社グループは増加する需要に対応するため、生産能力の増強、物流・生産体制の見直し、原料の安定確保、コスト競争力の強化、新製品の開発、そして海外展開等、経営基盤の更なる強化に取り組み、当第2四半期連結累計期間の売上高は213億1千万円(前年同期比8.8%増、17億3千万円増)となりました。営業利益は原料価格の上昇、減価償却費等のコストアップの影響で52億4千3百万円(同3.3%減、1億8千万円減)と若干の減益でしたが、経常利益は為替差益の計上等により56億2千3百万円(同3.3%増、1億7千7百万円増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、38億8千3百万円(同3.1%増、1億1千6百万円増)と増益になりました。

### Q 特に販売が好調な製品がありましたらお教え頂けますか？

A フマル酸国内競合メーカーの撤退があり、当社品への切り替えも進み好調に推移しています。また、アメリカの子会社で製造販売を行っているグルコン酸類に関しては、中国から輸入される製品の不当安価販売が認められたことで、アンチダンピング税の付加もあり、市場価格が以前より安定し、当社製品の需要も拡大しています。

### Q 中野新社長についてもっと知りたいのですが？

A 座右の銘ではないですが、「NBA」の精神を大事にしており、社員の皆様にもお願いしています。「NBA」(National Basket Associationではなく)逃げない、ぶれない、諦めない。

1972年から40年以上化学品専門商社の稲畑産業株式会社に

勤務し、主にプリンター部材、液晶フィルムなどの営業のため25カ国は訪問しました。プライベートではゴルフ、読書合間のゲームが好きですね。

### Q 社長就任後にはまず最優先で、取り組まれていることは？

A 私が目指すのは、扶桑化学の強みが受け継

がれ、世界に通用するような企業になることです。既に、当社販売の4割は海外向けになっています。限られた、国内市場だけ見ては、今後大きな成長は見

込めません。ビジネスチャンスを活かすためにも、海外での事業展開を今後強化していきます。また、ライフサイエンス事業・電子材料事業に続く第3の柱となる事業のタネは出来るだけ多く見つけていきたいと思っております。

### Q 最後に、中野新社長から、株主の皆様へメッセージをお願いします。

A 2018年度の扶桑化学の業績は、当初連結業績予想に対し順調に進捗しております。7年間連続の増収達成を目指し、当社グループ一丸となり取り組んでまいります。

盤石な経営体制の構築とさまざまな取り組みを行ってまいります。その中で着実な売上高・利益成長を遂げ続けることで、株主の皆様のご期待にお応えしていきたいと考えております。

株主の皆様には、今後もより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。





### LIFE SCIENCE



**ライフサイエンス事業**全体の業績は、外部顧客に対する売上高が128億7千百万円(前年同期比9.1%増、10億7千7百万円増)、営業利益は16億2千2百万円(同3.1%減、5千百万円減)となりました。国内外の拡販および主要原料価格上昇に対応した販売価格改定に努めました。また、海外子会社の現地販売が各地域とも堅調に推移した結果、売上高は前四半期連結累計期間を上回りました。一方、営業利益はコスト削減に努めたものの、原料価格や輸入仕入価格の上昇、米国子会社PMP Fermentation Products, Inc.のアンチダンピング提訴に伴う費用計上の影響が利益を押し下げる要因となりました。これらの結果、ライフサイエンス事業全体では増収減益となりました。

ライフサイエンス事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が128億7千百万円(前年同期比9.1%増、10億7千7百万円増)、営業利益は16億2千2百万円(同3.1%減、5千百万円減)となりました。

ライフサイエンス事業  
**60.4%**  
128億7千百万円

### ELECTRONIC MATERIALS & FUNCTIONAL CHEMICALS

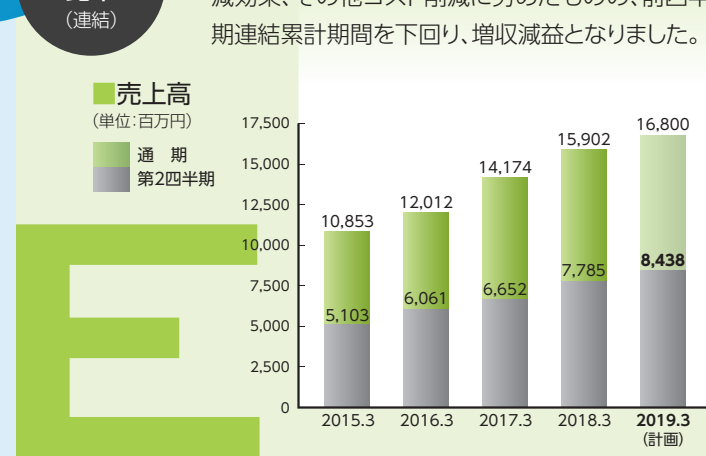
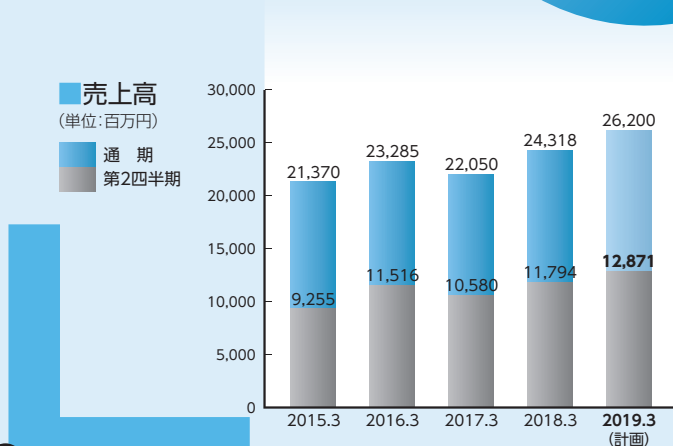


**電子材料および機能性化学品事業**全体の業績は、外部顧客に対する売上高が84億3千8百万円(前年同期比8.4%増、6億5千3百万円増)、営業利益は42億2千4百万円(同2.4%減、1億3百万円減)となりました。

半導体市場は引き続き堅調であり、半導体製造プロセスの微細化の進展により当社製品「超高純度コロイダルシリカ」への需要も継続して増加しています。増加する需要にこたえるため、生産能力の増強、品質安定化のための設備投資、生産要員の確保、分析能力の向上、出荷体制の見直し等に継続して対応しました。ナノパウダー等の半導体研磨分野以外に使用される製品の販売も引き続き堅調に推移し、売上高は前四半期連結累計期間を上回りました。一方、営業利益は、設備投資に伴う減価償却費の増加、増産体制確立のための要員確保による人件費の増加、原料価格の上昇等コストアップの影響が大きく、売上の増加、増産による原価低減効果、その他コスト削減に努めたものの、前四半期連結累計期間を下回り、増収減益となりました。

電子材料および機能性化学品事業  
**39.6%**  
84億3千8百万円

売上高の比率  
(連結)



## FUSO NEWS 1

### 超高純度コロイダルシリカ 新ライン完成



- ▲京都第1工場
- ◀京都第2工場

旺盛な需要に応えるために京都第1工場と京都第2工場において進めておりました超高純度コロイダルシリカの新ライン増設工事が完成し、現在試作品の製造を開始しました。半導体市場はこれまでのスマートフォンやPCに加え、AI(人工知能)、IoT(Internet of Things)、自動運転車やサーバー向けを中心に拡大が続いており、当社超高純度コロイダルシリカを使用したCMPスラリーの需要も益々増えていくと予想されています。



▲▲竣工式

## FUSO NEWS 2

### リンゴ酸新工場建設(鹿島事業所)



2019年7月の完成を目指し、ライフサイエンス事業部の戦略品であるリンゴ酸の製造設備の建設工事が順調に進んでいます。建設場所は、三井化学株式会社から有機酸設備(無水マレイン酸・フマル酸の製造)を譲り受け、昨年11月にスタートした鹿島事業所となります。完成すれば、最新鋭の設備で、鹿島事業所内で製造された無水マレイン酸からリンゴ酸の一貫生産が実現します。大阪工場に続く2つ目のリンゴ酸設備による生産増強により、さらなるリンゴ酸ビジネスの拡大に挑戦していきます。



# 連結財務諸表(要旨)

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2018年9月30日)	前連結会計 年度末 (2018年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	38,316	39,472
現金及び預金	17,656	18,940
受取手形及び売掛金	11,523	11,279
商品及び製品	6,460	6,339
仕掛品	343	280
原材料及び貯蔵品	1,313	1,389
その他	1,018	1,242
固定資産	30,311	24,758
有形固定資産	26,391	21,330
建物及び構築物(純額)	6,275	5,763
機械装置及び運搬具(純額)	5,016	3,364
土地	3,068	3,061
建設仮勘定	11,643	8,721
その他(純額)	386	420
無形固定資産	1,537	991
投資その他の資産	2,382	2,437
投資有価証券	1,093	964
長期前払費用	195	245
繰延税金資産	861	926
その他	232	300
資産合計	68,627	64,231

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2018年9月30日)	前連結会計 年度末 (2018年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債	13,470	12,270
支払手形及び買掛金	2,574	2,463
未払法人税等	1,665	1,687
その他	9,230	8,119
固定負債	1,766	1,814
繰延税金負債	35	31
退職給付に係る負債	1,639	1,642
その他	91	140
負債合計	15,237	14,084
<b>純資産の部</b>		
株主資本	51,546	48,480
資本金	4,334	4,334
資本剰余金	4,820	4,820
利益剰余金	42,396	39,329
自己株式	△4	△4
その他の包括利益累計額	1,843	1,659
非支配株主持分	—	7
純資産合計	53,390	50,146
負債純資産合計	68,627	64,231

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)
売上高	21,310	19,579
売上原価	12,586	10,933
売上総利益	8,724	8,646
販売費及び一般管理費	3,480	3,222
営業利益	5,243	5,424
営業外収益	386	56
営業外費用	6	34
経常利益	5,623	5,445
特別利益	14	0
特別損失	13	6
税金等調整前四半期純利益	5,623	5,439
法人税等	1,739	1,672
四半期純利益	3,883	3,767
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,883	3,767

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,465	1,518
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,375	△1,934
財務活動によるキャッシュ・フロー	△820	△891
現金及び現金同等物に係る換算差額	241	57
現金及び現金同等物の増減額	△1,489	△1,249
現金及び現金同等物の期首残高	18,930	23,985
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,441	22,735

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## Point 1

(連結貸借対照表)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ43億9千6百万円増加し、686億2千7百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得、建設仮勘定の増加によるものです。

負債については、前連結会計年度末に比べ11億5千2百万円増加し、152億3千7百万円となりました。これは主に、設備投資に伴う未払金の増加によるものです。

純資産については、前連結会計年度末に比べ32億4千4百万円増加し、533億9千万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものです。

## Point 2

(連結損益計算書)

当第2四半期連結累計期間における連結業績につきましては、超高純度コロイダルシリカなどの当社主力製品の販売が総じて好調に推移し、フマル酸や海外子会社でのグルコン酸類の販売増もあり、売上高および四半期純利益ともに、過去最高となりました。

一方、引き続き販売価格の改定やコスト削減をすすめましたが、原材料価格の上昇や償却費増の影響もあり、営業利益においては前第2四半期連結累計期間の実績を若干下回りました。

## Point 3

(連結キャッシュ・フロー計算書)

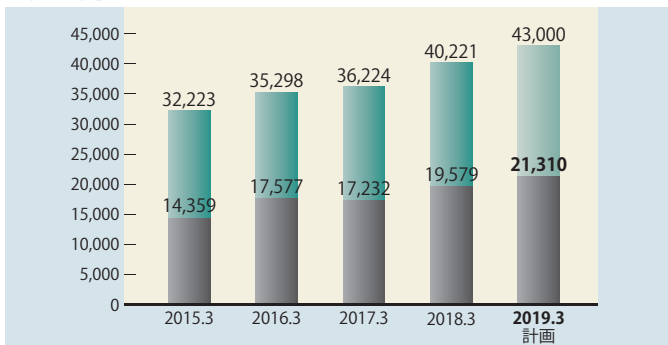
当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税金等調整前四半期純利益および減価償却費の発生により取得した資金を有形固定資産の取得、法人税等の支払、役員退職功労金、配当金の支払に充てた結果、前連結会計年度末に比べ14億8千9百万円減少し、174億4千百万円となりました。



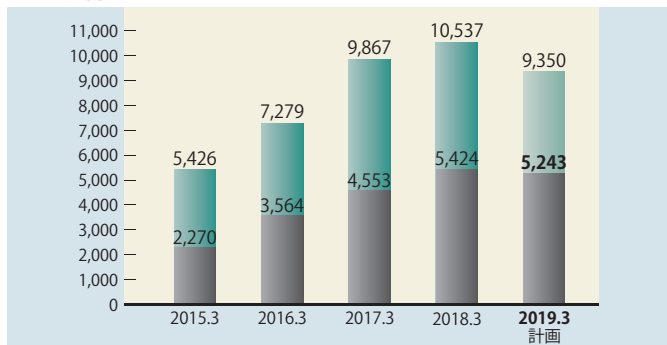
# 業績ハイライト(連結)

## FINANCIAL HIGHLIGHT

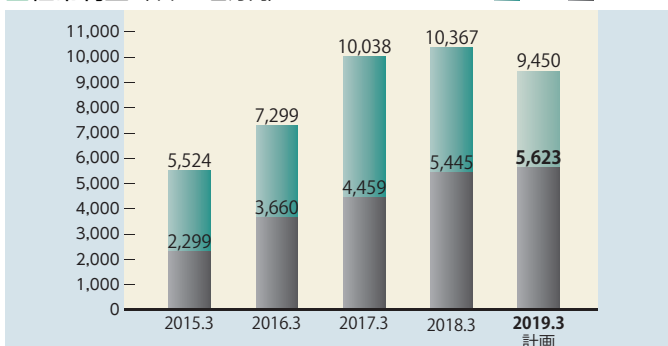
■売上高 (単位: 百万円)



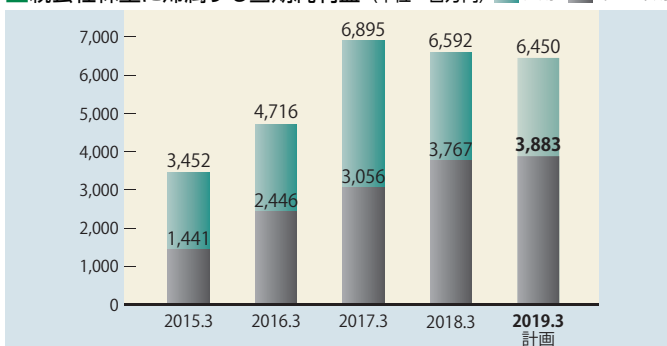
■営業利益 (単位: 百万円)



■経常利益 (単位: 百万円)



■親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



### 第2四半期と通期における業績の推移

	2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期(計画)
売上高 (百万円)	14,359	32,223	17,577	35,298	17,232	36,224	19,579	40,221	21,310	43,000
営業利益 (百万円)	2,270	5,426	3,564	7,279	4,553	9,867	5,424	10,537	5,243	9,350
経常利益 (百万円)	2,299	5,524	3,660	7,299	4,459	10,038	5,445	10,367	5,623	9,450
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	1,441	3,452	2,446	4,716	3,056	6,895	3,767	6,592	3,883	6,450
償却前営業利益 (百万円)	3,221	7,573	4,464	9,077	5,202	11,209	6,063	12,150	6,281	12,670
1株当たり当期純利益(円)*	45.75	109.57	77.64	143.76	86.08	194.22	106.11	185.67	109.38	181.67



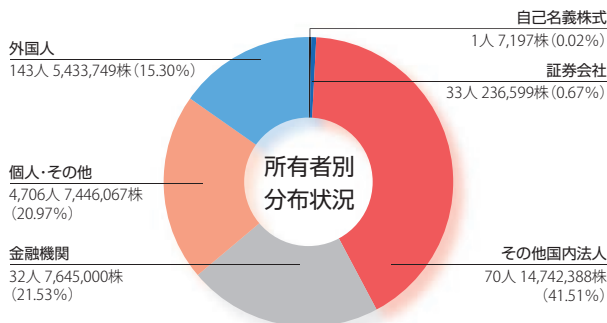
## 株式の状況

(2018年9月30日現在)

- 発行可能株式総数：95,000,000 株
- 発行済株式の総数：35,511,000 株  
(自己株式が 7,197 株含まれています。)
- 株主数：4,985 名

## 株主の分布

(2018年9月30日現在)



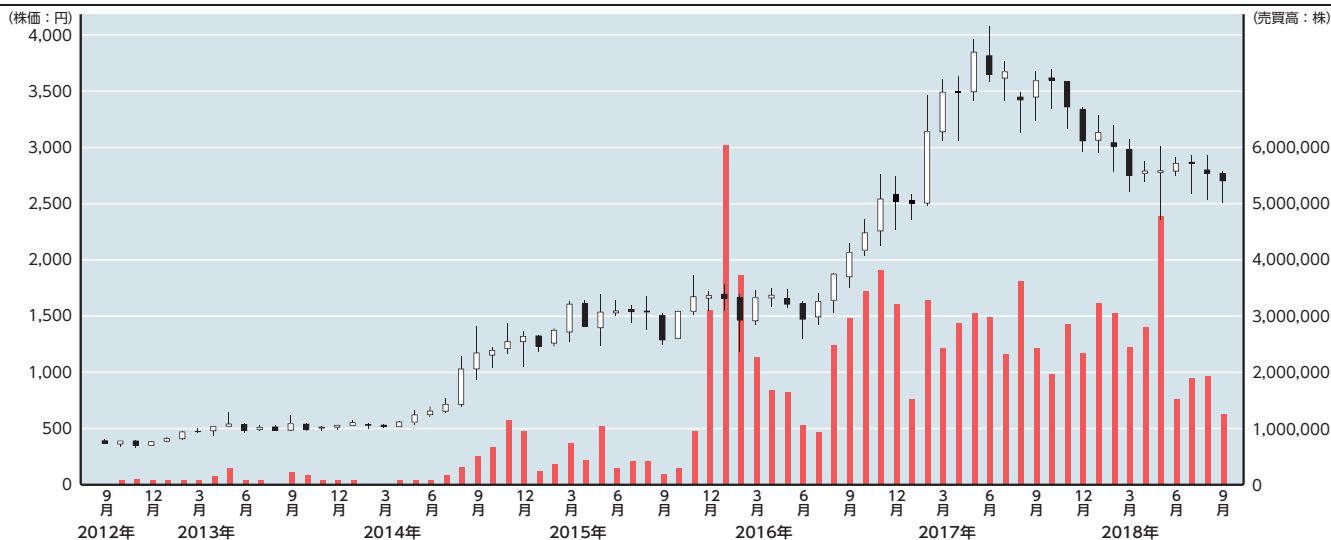
## 大株主

(2018年9月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社壽世堂	5,596,265	15.76%
帝國製菓株式会社	3,328,000	9.37%
赤澤 庄三	3,085,965	8.69%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,653,400	7.47%
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND	1,853,800	5.22%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,500,625	4.23%
有限会社帝産	1,375,000	3.87%
株式会社日本触媒	1,186,500	3.34%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,118,700	3.15%
株式会社りそな銀行	792,500	2.23%

・持株比率は、自己株式数を控除して計算しています。

## 株価の推移\*



※2014年10月1日付の株式分割(1:5)に伴い調整を行っています。



## 会社概要

- 商号 扶桑化学工業株式会社
- 創業 1952年(昭和27年)
- 設立 1957年6月24日(昭和32年)
- 資本金 43億3,404万7,500円
- 本社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋四丁目3番10号  
(日生伏見町ビル新館5階)  
TEL.(06)6203-4771(代)
- 東京本社 東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)
- 事業所
  - 新大阪事業所 大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号
  - 京都事業所
    - 京都第一工場 京都府福知山市長田野町一丁目5番地
    - 京都第二工場 京都府福知山市長田野町二丁目8番地
  - 鹿島事業所 茨城県神栖市東和田20番地
  - 東京研究所 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号  
(かながわサイエンスパークR&D棟 A206~A208)
  - 福岡営業所 福岡県柳川市三橋町下百町204番地1  
(荻島第5ビル3階)
  - 大阪工場 大阪府堺市西区築港新町三丁目27番地10
  - 十三工場 大阪府大阪市淀川区野中北二丁目10番30号
- 主要子会社 (国内) 株式会社扶桑コーポレーション
- 主要子会社 (海外) 青島扶桑精製加工有限公司(中国)  
PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ)  
FUSO (THAILAND) CO., LTD.(タイ)

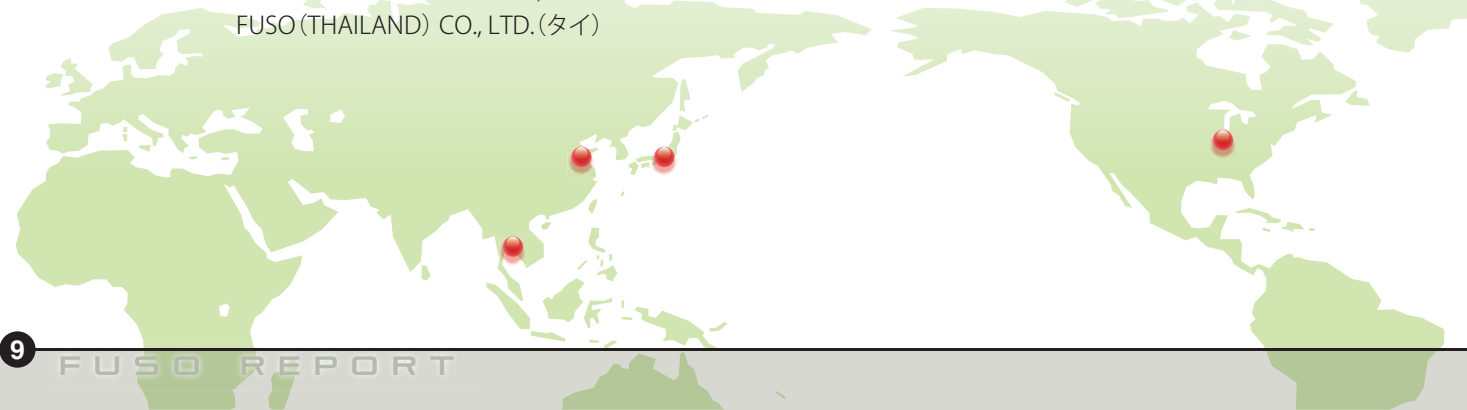
## 役員

(2018年9月30日現在)

- 名誉会長および取締役
  - ファウンダー 名誉会長 赤澤 庄三
  - 代表取締役会長 藤岡 実佐子
  - 代表取締役社長 中野 佳信
  - 取締役 政 氏 晴生  
(電子材料事業部長)
  - 取締役 谷村 隆史  
(ライフサイエンス事業部長 兼 生産本部長)
  - 取締役 武川 隆彦  
(管理本部長)
  - 取締役 多田 智美(社外)
- 取締役 監査等委員 中永 吉信
- 取締役 監査等委員 赤澤 敬敏(社外)
- 取締役 監査等委員 木下 善樹(社外)
- 取締役 監査等委員 榎本 修三
- 取締役 監査等委員 江黒 早耶香(社外)

## 執行役員

- 執行役員 中司 哲浩  
(ライフサイエンス事業部 営業開発部 福岡営業所長  
兼 株式会社扶桑コーポレーション 代表取締役社長)
- 執行役員 榎本源樹  
(ライフサイエンス事業部 営業開発部長)



- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月末日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
 期末配当金 毎年3月31日  
 中間配当金 毎年9月30日  
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社

- 株主名簿管理人事務取扱場所 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (電話照会先) ☎0120-782-031

(インターネットホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

#### 【株式に関する住所変更等の届出および照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

#### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等の届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

- 公告の方法 電子公告とする(<http://www.fusokk.co.jp/>)
- 上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第一部

#### 【利益配分に関する基本方針及び配当】

当社は、剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるという基本方針のもと、企業体質の強化ならびに今後の事業展開を勘案して行うこととしております。内部留保金につきましては、将来の事業成長のための設備投資および研究開発に充当していきます。

当期の中間配当金につきましては、前期と比べ1円増配の、1株につき23円となります。期末配当金は1株当たり23円とさせていただきます。当期の年間配当金につきましては、1株につき46円を予定しています。

**FUSO**  扶桑化学工業株式会社

<http://www.fusokk.co.jp/>

**VOC**  
**FREE** T&K

VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの  
インキを使用して印刷しました。